

A大学看護学生の保健師志望の現状と課題

前田 則子, 児玉 なぎさ

要 旨

本研究は、学生の保健師に対する関心度と職業選択への志望状況を把握し、今後の保健師教育の検討の示唆を得ることを目的とし調査を行った。

平成X年2月と平成X年9月に保健師教育の臨地実習を終了したA大学学生49名を調査対象とし、質問紙調査を実施した。

大学進学理由として「保健師を目指していた」と関連がみられたのは、「看護師・保健師両方の免許取得可能だから」(.460),「保健師への関心度」(.744),「資格取得のため」(.492),「憧れ」(.602),「入学前の保健師職業選択志望」(.569),「実習前の職業選択志望」(.604),「実習後の職業選択志望」(.426)だった。

「入学前の保健師への関心度」と関連がみられたのは、「資格取得のため」(.499),「憧れ」(.604),「入学前の保健師職業選択志望」(.660),「実習前の保健師職業選択志望」(.649), だった。

保健師としての職業選択志望と進路選択に対する自己効力との関連は、「実習前の保健師職業選択志望」では、「一つの職業に絞り込むこと」(.335),「卒後大学院に行くことが必要か決定すること」(.398)と相関を認め、「実習後の保健師職業選択志望」では、「一つの職業に絞り込むこと」(.342)と相関を認めた。

大学進学理由として保健師を目指していた人は、看護師・保健師の免許取得や保健師という職業に関心が高く、在学中も実習を通して保健師の職業選択志望が高かった。また、保健師という職業に対し関心が高い人は、保健師に対する憧れをもち、資格取得という目的意識が高いという結果が得られた。さらに、実習を通して保健師選択を志望していた人は、一つの職業に絞り込む自信をもっていたことから、元々保健師志望の学生のみならず、保健師に関心の低い学生に対しても学びの動機づけにつながるような十分な実習時間の確保や内容の検討、教育の充実が求められることが示唆された。

キーワード：看護学生、保健師教育、保健師志望、進路選択に対する自己効力

I. 緒 言

保健師教育は、2009年7月の保健師助産師看護師法の一部改正による養成期間の延長およびカリキュラム改正に基づき、厚生労働省より「保健師に求められる実践能力と卒業時の技術項目と到達度」¹⁾が示され、一定水準以上の質を備えた保健師教育²⁾の充実が求められている。A大学においても、2012年入学生から保健師教育は選択制が導入となり、2年次終了時に保健師を志望する学生を選考し保健師教育がスタートする。

一方、看護系大学数は209校³⁾となり、保健師養成者数は就職者数の9.0倍という過剰養成が主に大学場でなされ、保健師に関心を持たない学生が実習することにより、実習施設からは学生のモチベーションの低さを指摘される事態が発生していると報

告されている⁴⁾。このように保健師に関心が低いままでは3年次からの保健師教育にも影響を及ぼすことが懸念される。

そこで本研究では、先ずこれまでの保健師教育を履修した学生の保健師に対する関心度と職業選択への志望状況を把握し、今後の保健師教育の検討の示唆を得ることを目的とする。

II. 方 法

1. 調査対象

平成X年2月に保健師教育の臨地実習を終了した学生27名と平成X年9月に保健師教育の臨地実習を終了した学生22名、計49名のうち、研究承諾を得られた43名。

2. データ収集期間

平成X年2月～平成X年9月

3. データ収集方法

臨地実習終了後に自記式による質問紙調査を行った。

4. 調査内容

- 1) 大学進学理由の回答選択肢は、保健師を目指していたから、看護師保健師両方の免許が取れるから、周囲の勧めについて、「大変あてはまる」「ややあてはまる」「どちらでもない」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の5件法とし、その他については自由記述とした。
- 2) 入学前の保健師への関心度の回答選択肢は、「大変関心があった」「やや関心があった」「どちらでもない」「あまり関心がなかった」「全く関心がなかった」の5件法とした。その理由についての回答選択肢は、資格取得のため、憧れ、周囲の勧めについて、「大変あてはまる」「ややあてはまる」「どちらでもない」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の5件法とし、その他については自由記述とした。
- 3) 保健師としての職業選択志望の回答選択肢は、入学前の気持ち、実習前の気持ち、現在の気持ちを想起してもらい、「卒後すぐになりたい」「将来的に目指したい」「関心がない」「どちらでもない」の4件法とした。また、保健師になりたい気持ちに影響したことについて自由記述で尋ねた。
- 4) 保健師志望の意志に影響したことについて自由記述で尋ねた。
- 5) 実習における学習到達度について、家庭訪問、個人・集団・地域など対象への援助方法、健康教育、健康相談、集団検（健）診、地域保健診断、施策化についての回答選択肢を、「全く学べなかった」を0、「大変よく学べた」を10で表す10件法とし、学んだ内容については自由記述で尋ねた。
- 6) 浦上⁵⁾の「進路選択に対する自己効力尺度」を用いて、進路選択に対する自己効力を調査した。「自己効力」とは、ある行動が自分にうまくできるかという予期の認知されたものであり、行動と直接的な関連をもつとされている。30の設問から構成された尺度を「非常に自信がある場合」「少しは自信がある場合」「あまり自信がない場合」「全く自信がない場合」までの4件法で尋ねた。

3. 分析方法

項目ごとに点数化し、大学進学理由、保健師への関心度、保健師としての職業選択志望と進路選択に対する自己効力尺度との関連はpearsonの相関係数を算出した。統計ソフトはSPSSver12.0を使用した。

4. 倫理的配慮

研究対象者には、研究の主旨、本研究以外でデータを使用しないこと、無記名であること、自由意思による研究の協力であり参加しない場合であっても不利益がないこと、プライバシーの保護、研究成果の公表等について文書と口頭で説明し同意書への署名を得た。

本調査は、著者の所属機関の倫理審査を受け承認を得て実施した。

Ⅲ. 結 果

配布した質問紙49部のうち回答が得られた43部（有効回答率87.6%）を分析対象とした。

1. 対象の概要

看護学科への大学進学理由として、「保健師を目指していた」は8名（19.6%）、「看護師保健師両方の免許が取れるから」は40名（93.0%）、「周囲の勧め」は29名（70.6%）であった。その他自由記述として、「看護師を目指していたため」「養護教諭一種の免許も取りたかったため」「看護師の資格と保健師の資格を持つ養護教諭は加点されて、臨時採用もされやすいため」があった。

保健師に対する関心度として、「大変関心がある」「やや関心がある」を合わせて16名（45.7%）であり、「あまり関心がない」「まったく関心がない」を合わせて10名（28.6%）であった。「大変関心がある」「やや関心がある」と回答した理由として「資格取得のため」は「大変あてはまる」「ややあてはまる」を合わせて17名（70.8%）であり、「憧れ」は「大変あてはまる」「ややあてはまる」を合わせて12名（50.0%）、「周囲の勧め」は「大変あてはまる」「ややあてはまる」を合わせて7名（29.2%）であった。その他自由記述としては、「保健師という仕事自体が分からなかったため、仕事を知りたいという意味で関心があった」「養護教諭二種免許が取得できるから」があった。

保健師としての職業選択志望として、入学前から「卒後すぐになりたい」は2名（4.7%）、「将来的に目指したい」は12名（27.9%）、「どちらでもない」は15名（34.9%）、「関心がない」は14名（32.6%）であった。実習前の気持ちとして「卒後すぐになりたい」は4名（9.3%）、「将来的に目指したい」は10名（23.3%）、「どちらでもない」は19名（44.2%）、「関心がない」は10名（23.3%）であった。現在の気持ちとして「卒後すぐになりたい」は4名（9.5%）、「将来的に目指したい」は27名（64.3%）、「どちらでもない」は11名（26.2%）、「関心がない」を選択した人はいなかった。

2. 大学進学理由、保健師への関心度、保健師としての職業選択志望との関連

大学進学理由、保健師への関心度、保健師としての職業選択志望との関連をみるために相関係数を算出した(表1)。大学進学理由として「保健師を目指していた」と関連がみられたのは、「看護師・保健師両方の免許取得可能だから」(.460),「保健師への関心度」(.744),「資格取得のため」(.492),「憧れ」(.602),「入学前の保健師職業選択志望」(.569),「実習前の職業選択志望」(.604),「実習後の職業選択志望」(.426)だった。

「入学前の保健師への関心度」と関連がみられたのは、「資格取得のため」(.499),「憧れ」(.604),「入学前の保健師職業選択志望」(.660),「実習前の保健師職業

業選択志望」(.649), だった。

3. 大学進学理由、保健師への関心度、保健師としての職業選択志望と進路選択に対する自己効力との関連(表2)

「入学前の大学進学理由“周囲の勧め”」では,「人間相手が情報相手かどちらが自分に適しているか決めること」(.321),「自分の才能を生かせる分野を決めること」(－.330), と相関を認めた。「入学前の保健師への関心“周囲の勧め”」は,「望んでいた職業に就けなかった場合うまく対処すること」(.554),「親が勧める職業でも自分に合わないと感じるものがあるれば断ること」(－.440)と相関を認めた。「入学前の

表1. 大学進学理由、保健師への関心度と保健師としての職業選択志望との関連

	入学前の大学進学理由“保健師を目指していた”	入学前の大学進学理由“看護師・保健師両方の免許取得可能だから”	入学前の大学進学理由“周囲の勧め”	入学前の保健師への関心度	入学前の保健師への関心“資格取得のため”	入学前の保健師への関心“憧れ”	入学前の保健師への関心“周囲の勧め”	入学前の保健師職業選択志望	実習前の保健師職業選択志望	実習後の保健師職業選択志望
入学前の大学進学理由“保健師を目指していた”	1.00	.460***	ns	.744***	.492*	.602**	ns	.569**	.604**	.426**
入学前の大学進学理由“看護師・保健師両方の免許取得可能だから”		1.00	ns	ns	.823**	.566**	ns	.413**	.428**	ns
入学前の大学進学理由“周囲の勧め”			1.00	ns	ns	ns	.545**	.231**	ns	ns
入学前の保健師への関心度				1.00	.499*	.604*	ns	.660**	.649**	ns
入学前の保健師への関心“資格取得のため”					1.00	.723**	.457**	.629**	.682**	ns
入学前の保健師への関心“憧れ”						1.00	.489*	.842**	.856**	.457*
入学前の保健師への関心“周囲の勧め”							1.00	ns	ns	ns
入学前の保健師職業選択志望								1.00	.866**	.339*
実習前の保健師職業選択志望									1.00	.382*
実習後の保健師職業選択志望										1.00

Pearsonの相関係数: *p<0.05, **p<0.01

表2. 大学進学理由、保健師への関心度、保健師としての職業選択志望と進路選択に対する自己効力との関連

	一つの職業に絞り込むこと	人間相手が情報相手かどちらが自分に適しているか決めること	自分の才能を生かせる分野を決めること	望んでいた職業に就けなかった場合うまく対処すること	将来のために在学中に計画を立てること	親が勧める職業でも自分に合わないと感じるものであれば断ること	卒後大学院に行くことが必要か決定すること
入学前の大学進学理由“周囲の勧め”	ns	.321	-.330*	ns	ns	ns	ns
入学前の保健師への関心“周囲の勧め”	ns	ns	ns	.554**	ns	-.440*	ns
入学前の保健師職業選択志望	ns	ns	ns	ns	-.307*	ns	.359*
実習前の保健師職業選択志望	.335*	ns	ns	ns	ns	ns	.398**
実習後の保健師職業選択志望	.342*	ns	ns	ns	ns	ns	ns

Pearsonの相関係数: *p<0.05, **p<0.01

保健師職業選択志望」は、「将来のために在学中に計画を立てること」(.307)、「卒後大学院に行くことが必要か決定すること」(.359)と相関を認めた。「実習前の保健師職業選択志望」は、「一つの職業に絞り込むこと」(.335)、「卒後大学院に行くことが必要か決定すること」(.398)と相関を認め、「実習後の保健師職業選択志望」は、「一つの職業に絞り込むこと」(.342)と相関を認めた。

IV. 考 察

1. 保健師を目指す学生の大学進学と保健師職業選択志望理由

大学進学理由として保健師を目指していた人は、看護師・保健師の免許取得や保健師という職業に関心が高く、在学中も実習を通して保健師の職業選択志望が高かった。また、保健師に対し関心が高い人は、保健師という職業に対する憧れをもち、資格取得という目的意識が高いという結果が得られた。一方、「周囲の勧め」が大学進学理由の場合、入学前の保健師職業選択志望に弱い相関を認めたが、実習前、実習後の選択志望に有意な相関は得られなかった。同じく保健師という職業に対する関心の高まりが「周囲

の勧め」の場合、入学後、実習前後を通して保健師職業選択志望に有意な差は得られなかったことから、周囲の勧めでは保健師職業選択にまで至ることが難しいと思われる。

周囲の勧めであっても関心を持ち続け、職業選択志望につなげるためには、実習で保健師と地域の人々との関わりを見ることで保健師という職業に魅力を感じ、将来自分がどのように働きたいかという具体的なイメージを抱く機会を得ることで、保健師になりたい気持ちの動機づけを図ることが必要であると考える。そして、自分自身で卒後の職業選択を行い、目標に向かうための学習意欲を持たせるきっかけとすることが重要であると考ええる。

2. 大学進学理由、保健師への関心度、保健師職業選択志望と進路選択に対する自己効力感との関連

大学進学理由が「周囲の勧め」の人は、「自分の才能を生かせる分野を決めること」への自己効力が低く、保健師への関心度が「周囲の勧め」の人は、「親が勧める職業でも自分に合わないと感じるものであれば断ること」への自己効力が低いという結果より、

表 3. 進路選択に対する自己効力尺度の平均値・標準偏差

職業選択に対する自己効力感	n=44	
	平均値	SD
自分の能力を正確に評価すること	2.23	0.522
自分が従事したい職業(職種)の仕事内容を知ること	2.77	0.565
一度進路を決定したならば、「正しかったのだろうか」と悩まないこと	2.93	3.173
5年先の目標を設定し、それにしがたてて計画を立てること	2.55	0.73
もし望んでいた職業に就けなかった場合、それにうまく対処すること	2.59	0.693
人間相手の仕事か、情報相手の仕事か、どちらが自分に適しているか決めること	2.86	0.554
自分の望むライフスタイルにあった職業を探すこと	2.8	0.701
何かの理由で卒業を延期しなければならなくなった場合、それに対処	2.52	0.698
将来の仕事において役に立つと思われる免許・資格取得の計画を立	3.09	0.563
本当に好きな職業に進むために、両親と話し合いをすること	3.14	0.734
自分の理想の仕事を思い浮かべること	3.05	0.68
ある職業についている人々の年間所得について知ること	2.73	0.624
就職したい産業分野が、先行き不安定であるとわかった場合、それに	2.47	0.55
対処すること		
将来のために、在学中にやっておくべきことの計画を立てること	2.57	0.695
欲求不満を感じても、自分の勉強または仕事の成就まで粘り強く続けること	2.5	0.665
自分の才能を、最も生かせると思う職業的分野を決めること	2.7	0.594
自分の興味をもっている分野で働いている人と話す機会を持つこと	2.75	0.686
現在考えているいくつかの職業のなかから一つの職業に絞り込むこと	2.86	0.554
自分の将来の目標と、アルバイトなどでの経験を関連させて考えること	2.86	0.734
両親や友達が勧める職業であっても、自分の適性や能力に合っていないと感じるものであれば断ること	2.66	0.568
いくつかの職業に興味を持っていること	2.84	0.713
今年の雇用傾向について、ある程度の見通しを持つこと	2.64	0.613
自分の将来設計にあった職業を探すこと	2.89	0.493
就職時の面接でうまく対応すること	2.73	0.727
学校の就職係や職業安定所を探し、利用すること	2.86	0.632
将来どのような生活をしたいか、はっきりさせること	2.91	0.709
自分の職業選択に必要な情報を得るために、新聞、テレビ等のマスメディアを利用すること	2.64	0.613
自分の興味・能力に合うと思われる職業を選ぶこと	2.98	0.698
卒業後さらに、大学・大学院や専門学校に行くことが必要なのかどうか決定すること	2.82	0.62
望んでいた職業が、自分の考えていたものと異なっていた場合、もう一度検討し直すこと	2.77	0.642

自分の意志よりも周囲の勧めの影響が大きい人は将来の職業選択を自己決定する意識の低さが伺えた。一方、実習を通して保健師選択を志望していた人は、一つの職業に絞り込む自信をもっていたことから、実習が保健師の仕事内容やその魅力に対して具体的なイメージ化を図り、将来の職業選択に関わる大事な機会であることが再確認できたとともに、進路に対する自己効力へも影響を及ぼすことが示唆された。

3. 実習における学習到達度

実習を通して、〈地域とのふれあい〉、〈生活の支援を知る〉、〈地域住民との関係性〉を学び、「温かい気持ちになった」「保健師の寄り添い方に感動した」「多くの人と関わるのが楽しかった」と学習効果が得られていた。しかし、習得すべき実践能力の到達度は、家庭訪問、個人・集団・地域など対象への援助方法、健康教育、健康相談、集団検（健）診では高い自己評価が得られたが、地域保健診断、施策化では自己評価が低いという結果となった。檜橋らは保健師活動の思考過程の理解には、学生が継続して対象者に関わり、個別支援を経験するとともに、地域の健康課題の抽出から支援の実施評価までを経験することが重要⁶⁾と述べている。また石井らも、短い実習期間では技術の習得が困難である⁷⁾と述べており、実習時間の確保や内容の検討、教育の充実等について

表 4. 実習における学びの到達度の自己評価

学びの項目	平均値(SD)
個人・家族・地域など対象への援助方法	8.49(1.203)
家庭訪問	8.42(1.332)
健康教育	8.65(1.066)
健康相談	8.05(1.207)
集団検(健)診	8.64(0.958)
地域診断	7.43(1.299)
施策化	5.78(2.140)

今後の保健師教育への課題が明らかになった。

V. 結 論

大学進学理由として保健師を目指していた人は、看護師・保健師の免許取得や保健師という職業に関心が高く、在学中も実習を通して保健師の職業選択志望が高かった。また、保健師という職業に対し関心が高い人は、保健師に対する憧れをもち、資格取得という目的意識が高いという結果が得られた。さ

らに、実習を通して保健師選択を志望していた人は、一つの職業に絞り込む自信をもっていたことから実習が学生の職業選択に及ぼす影響は大きいと考える。

したがって、元々保健師を志望する学生のみならず、保健師への関心が低い学生に対しても、学びの動機づけにつながるような十分な実習時間の確保や内容の検討、教育の充実が求められることが示唆された。

VI. 研究の限界と課題

本研究は、1 大学における学生の質問紙調査にてデータ収集を行なったため、一般化は困難である。今後、調査機関を拡大し研究の妥当性を高めていきたい。

引用文献

- 1) 大学における看護系人材育成のあり方に関する検討会：大学における看護系人材育成のあり方に関する検討会第1次報告,2009.
- 2) 一般社団法人全国保健師教育機関協議会：保健師教育におけるミニマム・リクワイアメンツ全国保健師機関協議会版(2013)－保健師教育の質保証と評価に向けて－,p1,2013.
- 3) 日本看護系大学協議会：<http://www.janpu.or.jp/kango/k06.html>
- 4) 綾部明江,富岡実穂,木下由美子：保健師志望学生が望む保健師教育のあり方－A 大学4年生の意見をを通して－,茨城県立医療大学紀要 17(17),p51－p58,2012.
- 5) 堀道雄監修,吉田富二雄：心理測定尺度集Ⅱ,浦上昌則:進路選択に対する自己効力尺度 ,pp359-364.サイエンス社.
- 6) 檜橋明子,尾形由起子,山下清香,小野順子,手島聖子,野見山美和：A 大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」に対する学生の自己評価から,福岡県立大学看護学研究紀要 ,10(2),p73－82,2013.
- 7) 石井敦子,岡本光代,谷野多見子,前原理恵,山田和子他：「保健師教育における技術項目と卒業時の到達度」の自己評価と地域看護実習の課題,和歌山県立医科大学保健看護学部紀要 ,9,p51-62,2013.

Current Situation and Challenges in Nursing Students' Intention to become a public health nurse

Noriko Maeda, Nagisa Kodama

Department of Nursing , Faculty of Nursing and Nutrition,
Kagoshima Immaculate Heart University

Key words : Nursing students, Public health nursing education,
Intention to become a public health nurse, self-efficacy in career selection

Abstract

To elucidate the current situation in public health nursing education and to identify future research topics, we investigated the extent of nursing students' interest in public health nursing and their aspirations toward this field as a career choice. A survey questionnaire was administered to 49 nursing students who had done community care fieldwork in February and September of 2013. Factors relating to their decision to enter college "to become a public health nurse" were "acquiring both a nursing and public health nurse license" (.460), "degree of interest in public health nursing" (.744), "wanting to obtain a license" (.492), "admiration" (.602), "intention to become a public health nurse before admission" (.569), "intention to make a career choice before field experience" (.604), and "intention to make a career choice after field experience" (.426). Factors relating to the degree of interest in public health nursing before admission were "wanting to obtain a license" (.499), "admiration" (.604), "intention to become a public health nurse before admission" (.660), and "intention to become a public health nurse before field experience" (.649). With regard to the association between public health nursing as a career choice and subsequent course selection and self-efficacy, "intention to become a public health nurse before field experience" was correlated with "narrowing down to a single career choice" (.398) and "deciding that graduate school is necessary after graduation" (.398), whereas "intention to become a public health nurse after field experience" was correlated with "narrowing down to a single career choice" (.398). The students who entered college because they aspired to become a public health nurse had strong interest in licenses in nursing and public health nursing, and their intention to become a public nurse was strong during their studies, even during fieldwork. Also, students who had high interest in public health nursing had high levels of admiration of public health nurses as well as a strong intention to obtain a license. Furthermore, those who had the intention to make public health nursing a career choice after field experience had the confidence to narrow down to a single career choice. These findings suggest that courses should be designed to increase the motivation to learn both in students with low interest in public health nursing and in those who have already made public health nursing a career choice.
